

7 つの方法で



レゴ® エデュケーションで 子どもの学びを サポート

これを実践

こうやって指導

アクティビティの前



スタートが肝心です!
新しいプロジェクトを開始する前に、子どもがプロジェクトを完了するために必要な材料が揃っていて、作業に十分なスペースがあることを確認してください。

- このプロジェクトには何がいるかな?
- 何にお手伝いがいりそうかな?

アクティビティの最中



一緒に学びましょう。
子どもと一緒に、いくつかアクティビティを行いましょう。課題へどう取り組めばいいか、お手本をみせます。組み立ては一人が行い、片方は見ているだけにならないように、チームワークで行なってください。

- …したらどうなるかな?
- …って、直せると思う?
- …は、どうやって始めればいいのかと思う?
- モデルが…できるようにするには、どう改造すればいいかな?



指導するのではなく、一緒に学びましょう。
つい自分でやってあげたくなってしまいますが、我慢してください(特に、子どもが大変そうにしている時)。その代わりに、答を導き出せる質問をしたり、お手本を見せたり、現在の作業に使える方法について話し合しましょう。

- …したら、どうなるかな?
- …に気が付いたよ。
- 何か、気が付いたことはある?
- …してみてもいいかもしれないね。
- 一緒に、いくつか方法を考えてみよう。

これを実践	こうやって指導
引き続き、アクティビティの最中	



子どもの感情を認めましょう
 子どもたちは、自分で創造し学ぶ時に、イライラしたり、混乱したり、楽しかったり、興奮したりします。子どものそういった気持ちを認め、必要に応じてまた集中できるように助けましょう。

例えば、子どもがイライラしている場合には、原因が何かを話し合い、その感情的な反応を乗り越えられるように導きます。イライラの原因をあなたが理解していることと、そういう感情を持つのは悪いことではないことを、子どもにしっかり伝えてください。

- どうしてそう感じたの？
- うん、これは難しいよね。もしかしたらこうすればいいんじゃないかな？
- プロジェクトを続けるために、一緒に何か出来ることはあるかな？
- 前に、〇〇は出来たよね。それと同じようにやってみてもいいかもしれないね。
- 何が大変？
- …したらどうなるかな？



失敗を理解する=成功!
 失敗は面白くないものですが、失敗が成功に繋がることはよくあることを説明し、子どもをサポートしてあげてください。子どものために問題を解決しようとするのは止めましょう。その代わりに、新しく何が出来るか考えることを手伝ってあげます。うまくいかなかった事と、それをどうやって変えられるかについて話し合いましょう。失敗しても大丈夫だとしっかり伝えてください。

- 成功するには、失敗しなければいけない事もあるんだよ。そうやって皆んな、学んでいくんだよ。
- 何がひっかかっているのかな？
- 何を変えたらいいのかな？
- 思うように出来ていたのは、いつ？そこまで戻って、やり直してみよう。



子どもの努力を褒めましょう。
 「正しい」か「間違っている」か、を気にするのはなく、子どもが頑張っていることを認めてあげましょう。

- 大変な思いをしても頑張ってたね、偉いね。
- イライラを溜め込む代わりに、助けを求めてくれたよね。それもいいことなんだよ。
- 絶対諦めなかったのは、素晴らしいことだよ!

アクティビティの後



子どもが学んだ内容を振り返りましょう。
 学習は、アクティビティの後も続きます。子どもが創作したものについて話すことを忘れないでください。子どもが自分が行なったことや、問題に対して解決策を見つけた方法を振り返るのを助けてあげましょう。

- このアクティビティで一番難しかったのはどこの部分？
- 一番簡単だったのは？
- 何が一番楽しかった？
- 次にやってみたいことはある？

